

3 支援活動の報告 (うきは市派遣職員)

3 支援活動の報告（うきは市派遣職員）

平成 25 年度にうきは市に派遣された本市職員による活動報告（12 名）

◆うきは市派遣職員

	派遣先	氏名（職種）	（頁）
①	うきは市災害対策推進室（25/4/1～25/6/30）	牧野 詩美（土木）	92
②	うきは市災害対策推進室（25/4/1～25/6/30）	下川 博之（土木）	96
③	うきは市災害対策推進室（25/4/1～25/6/30）	坂口 忠文（土木）	98
④	うきは市災害対策推進室（25/7/1～25/9/30）	加藤 剛（土木）	100
⑤	うきは市災害対策推進室（25/7/1～25/9/30）	大松 正成（土木）	101
⑥	うきは市災害対策推進室（25/7/1～25/9/30）	室 伸治（土木）	104
⑦	うきは市災害対策推進室（25/10/1～25/12/31）	篠崎 正洋（土木）	107
⑧	うきは市災害対策推進室（25/10/1～25/12/31）	吉谷 貴彦（土木）	110
⑨	うきは市災害対策推進室（25/10/1～25/12/31）	會津 和樹（土木）	113
⑩	うきは市災害対策推進室（26/1/1～26/3/31）	松尾 浩（土木）	115
⑪	うきは市災害対策推進室（26/1/1～26/3/31）	古田 正剛（土木）	118
⑫	うきは市災害対策推進室（26/1/1～26/3/31）	衛藤 勉（土木）	121

順不同、敬称略

うきは市災害復旧支援活動報告



派遣先 うきは市災害対策推進室
所属 建設局河川部河川整備課
氏名 牧野 詩美
活動期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日
支援活動 公共土木施設災害復旧支援

【うきは市へ】

平成 24 年 7 月の九州北部豪雨、各地で被害が多数発生していた。新聞やテレビ等が伝える情報はごく一部でも、甚大な被害であることは明らかであった。

当部では、早い段階で災害復旧支援の派遣について話がでていた。まず、最初は、災害復旧の経験のある人を派遣するというので、数名が候補となった。以前、災害査定を受験したこともあり、自分も直接行って役に立ちたいと思っていたが、この時点では私は候補とならず、派遣される人の仕事を受け持つことも後方支援と思い、あきらめていた。

年が明けて 2 月末、4 月からの派遣に行かないかと話があり、「行きます」と即答した。周りは女性だからと心配してくれたが、今までの仕事と本質的に同じなので、不安は、ほとんどなく、それよりも現地の災害復旧に直接携われることに、やりがいを感じていた。

事前の説明で、工事の発注と現場監督の業務を行うということで、役にたちそうな資料をもって、うきは市へ入った。

ちょうど 4 月から、うきは市災害対策推進室が新設され、うきは市の職員と本市や福岡市、福岡県などからの派遣者や久留米市の OB などを含めたメンバーで、災害復旧を進めることになった。

【業務について】

まず、担当となる地域の災害査定箇所を全て見てまわった。被災から 9 ヶ月経っているが、まだ手付かずの箇所が多い。災害査定が年明けまでかかったのだから無理もないが、地元住民からすると、何故、早く復旧工事に取りかかれないのかと思うことだろう。



【橋梁横の護岸被災 道路の陥没】



【護岸被災 近くに納屋と住宅】

そこで、出水期前までに、河川の復旧工事を発注することが私達の急務となった。

しかし、擁壁工指針の改定に伴い、25年度発注分から、直高が5mを超える護岸は、指針に基づいて設計を行う必要があった。この対象となる護岸が30箇所以上あり、これらについては、査定時からの工法変更ということで、県及び国への重要変更協議からはじめなければならなかった。前任の方々が方向性をつけてくれていたので進めやすかったが、更に内容を一部変更し、各設計コンサルタントへの指示や説明資料の作成等で時間が必要となった。

まずは1箇所、内容変更の国の承認が得られれば、後は同様の変更となるので、コンサルタントを急がせ、設計書や関係書類を作成し、県へ協議申請を行った。

ここで、本市のように政令指定都市は、直接、国への申請ができるが、うきは市は、県からの申請となる。県の担当者も迅速に対応してくれていたが、やはり、どうしても時間のロスが生じる。もどかしさを感じた。

5月に入り、5m超の護岸の重要変更について国の内諾がとれたため、他の案件も同様に作業を進めていった。しかし、変更となる内容は同様でも、やはり1件毎に、変更協議用の資料を提出し、協議も必要となる。この資料が、やたら細かく作成に手間がかかる。簡素化できないものかと思う。

【現場では】

一方で、昨年度からの繰越工事の現場監督業務もあった。基本的には、うきは市の職員が対応していたが、本市と違い、検査を行う組織がないためか、黒板の書き方や工事写真の撮り方もよくわからない業者もいて驚いた。この災害復旧工事で業者の指導から行うのは大変である。

また、現場は、山間部で道も狭く、谷が深いため高低差があり重機の搬入も困難であったり、掘削中に巨石がでてきたり等、設計どおりに施工できない現場も多々ある。施工業者からの問い合わせもひっきりなしにある。業者への指示にも、災害手帳等片手に確認しながら行っていた。

これから工事発注が進み施工箇所が増えると、現場確認や業者への指示など、現場監督業務で職員の人手がますます必要となるだろう。



【工事着工前】



【工事施工中】

【梅雨を迎えて】

協議や資料の作成に時間を要し、梅雨前までに河川災の全てを発注することはできなかった。しかし、地域維持型JVとして地域毎に業者を集め、出水期前の危険箇所パトロールや緊急応急工事、出水時のパトロール等を行うことになり、梅雨時期も大きな2次被害はなかった。

市役所の災害対策推進室前の廊下には、工事の発注状況などを掲載する災害復旧情報コーナーを設置し、広報などで市民への情報提供も随時行っている。

国への協議などは、県を介するため時間を要するが、市内部での意思疎通や決裁など素早く、機動力があり迅速な対応ができています。市民から職員、市長までの距離もとても近いように感じた。



【 持木川 被災箇所 】



【同左箇所 JV 施工 河道確保】



【うきは市役所 外観】



【災害復旧情報コーナー】

【派遣を終えて】

3ヶ月という期間は、正直、短いと感じた。短いサイクルで本市の多くの職員が災害復旧に係わるのは良いことでもあるが、地理や電算システムを覚えるのに10日間程度は必要であり、その分、作業効率が落ちる。他の市、県からの派遣者の多くは1年単位での派遣である。うきは市側からすれば入れ替えが少ないほうが良い。実際、業務の途中で帰るのは残念で、せめてあと1ヶ月あれば、ずいぶん進めたのと思った。

最初から何の不安ももたず、うきは市に入り、本当にすんなりと変わりなく3ヶ月過ごせたのも、

うきは市の方々が暖かく迎えてくれたおかげである。また、復旧工法や構造計算などの基本から改めていろいろと勉強となり、仕事に対する熱い想いなど直接感じることができ、得ることのほうが多い派遣だった。

北九州市に復帰して1週間。ちょうど九州北部豪雨から1年ということで、ニュースでうきは市が取り上げられていた。一日も早い復旧を願うばかりである。



うきは市での災害派遣を通して



派遣先 うきは市災害対策推進室
所属 建設局東部整備事務所工務第一課
氏名 下川 博之
活動期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日
支援活動 災害復旧業務支援

平成 25 年 3 月上旬うきは市の災害復旧支援に行かないかと話があった。返事は来週はじめてくらいでよいということであったが、実質 3 日くらいしかなかった。うきは市がどのような町なのか。地理もよく分かっていなかったため、休日を利用してうきは市に行ってみることにした。途中、朝倉市を



通ったところで河川の災害復旧工事が行われていた。うきは市に着いてみると平地部は災害が起きている状態ではなかった。山地部で災害が起きているのかもしれない。とりあえず、うきは市までの道が分かったため、帰ることにした。私は災害の経験がなかったが、少しでもうきは市でお役にたてればという気持ちで行くことを決意した。

3 月 22 日に北九州市から 3 名の派遣者と危機管理室の課長とともにうきは市の下見に行き、山地部の被災状況を見て、改めて被災の大きさに驚かされた。河川が氾濫し橋も流され道路も崩れていた。今まで、北九州から派遣職員 5 名であったが、今回から 3 名となり 5 人分の仕事をこれからから 3 名でしなければならなくなった。

4 月 1 日、うきは市で辞令書をもらい、うきは市災害対策推進室災害復旧係に勤務することになった。災害復旧係は公共土木災害班（7 名）、農業土木災害班（6 名）林道施設災害班（2 名）でそれぞれの班にうきは市職員と班長がおり、福岡県職員と福岡市職員、久留米市 OB の方が勤務されていた。室長は国土交通省九州地方整備局から来られておりたくさんの方が応援に来られていた。そのなかの公共土木災害班に北九州市 3 名が所属することになった。また、地理がわからないため、



うきは市職員とペアを組んで行動することになった。



最初の頃は引き継ぎで、査定番号ごとに現地をみて写真を撮影したり、積算端末が北九州市と違うためそれを覚えることに時間がかかった。「せめて積算端末が同じであればもっとスムーズにいくのになあ。」と思ったがしかたのないことである。

自分の担当地区は吉井地区、妹川地区、浮羽地区、小塩地区でうきは市の東西地区である。まず、河川災害と道路災害で県と協議しなければ設計が進まないところ

ろから始めていった。今までの経緯や設計思想を勉強して、県の方に現地で立ち会ってもらい、アドバイスを受け、協議しながら設計を進めていった。

また、大分県日田市との境にある道路災害（河川沿い）護岸復旧と道路のコンクリート舗装で、日田市が河川に堰をつくって農業用水路をひくため、急ぎで設計しなければならなかった。図面をみると日田市工事分とうきは市工事分があり、その重なり部が最初よく分からなく、うまく現場で重なるように設計コンサルタントと十分に協議し、発注した。



苦勞したところは北九州市と違いうきは市は政令都市ではないため、県と協

議しながら発注しなければならないところである。私も県土整備事務所と県庁を何度か往復し、その度に半日から1日はつぶれてしまった。これもしかたのないことだと思う。

そのようなことを繰り返し、連日残業しながら他の箇所も積算し発注していった。

最後に、北九州市でもこのような大災害がいつ起こるかわからない。日頃からいつ災害がおきても対応できるような心構えと備えが必要だと思う。また、うきは市の被災地の方々の元の生活を早く取り戻すために、支援をこれからも継続していくことが必要だと感じた。

うきは市での災害派遣を通して



派遣先 うきは市災害対策推進室
所属 建設局西部整備事務所工務第一課
氏名 坂口 忠文
活動期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日
支援活動 災害復旧業務

うきは市では、平成 24 年 7 月 11 日から平成 24 年 7 月 14 日にかけて続いた記録的豪雨により未曾有の災害が発生した。

うきは市浮羽町（葛籠地区）では、24h 雨量 478mm もの降水量を記録し、いたる所で道路損壊や河川決壊・橋梁流失・崖崩れ・家屋倒壊等が発生し、多大な被害をもたらし、1 名の方の人命が奪われた。

私たち（3 名）が派遣されるのは第 3 陣として、第 1 陣・第 2 陣の災害査定をもとに、公共土木災害の実施設計及び工事監督を主たる業務として派遣されました。

4 月 1 日に辞令を受け、大まかな災害状況を教えてもらい、派遣期間が 3 ヶ月と短いため、1 日も早く実務に入れるよう、早速うきは市職員と現場に向かい現地視察を行いました。

所々応急工事等は行われているが、そのほとんどが被災時のままの状態、道路は陥没し、護岸も崩壊、落橋している橋梁も確認できました。今からが災害復旧の始まりだと強く感じました。



【写真 1】左側から土砂が流出し家屋が半壊している。

小屋は全壊。河川護岸が崩壊、橋梁が落橋。

災害復旧の概要としては、公共土木災害 191 箇所（河川 82・道路 105・橋梁 4）、農業災害 1

最初の 1 週間は、被災箇所の大部分が、山間部に集中しており、地の利が無いため、現場まで行く道のりが分からず、目標物が載っていない地図を片手に、風景が変わらない道のりを進んでいきました。

また、設計時に使用する積算システムも今まで使ったことのないもので、苦労したことをよく覚えています。

03箇所、林道災害23箇所となっており、災害復旧においては、災害年度を含めて3カ年のうちに完了することとされています。(決定額は省略します)

私たちが担当する公共土木災害では、うきは市職員3名と北九州市派遣職員3名で業務にあたりました。すぐに(6月)梅雨期に入ること、さらなる被害の拡大を防ぐため、まず河川復旧に取りかかり治水安全の確保を行うこととし、工事発注に向け業務を行いました。しかし、山間部であるため急傾斜地が多く、機器類の寄りつきや施工方法等の検討に苦慮しました。

また、現場までの進入路が狭少であるため、地区ごとに集中的に施工すると重機・工事車両等で渋滞が発生し、住民の生活に支障をきたすとの懸念もあり、すべての箇所に緊急性があるなかで復旧計画を立て、施工にあたりました。



【写真2】

- ・河川護岸が崩落し、家屋が半壊している(手前)
- ・床版橋が上流から流されている。
- ・道路が狭く大型車両等が進入できない。

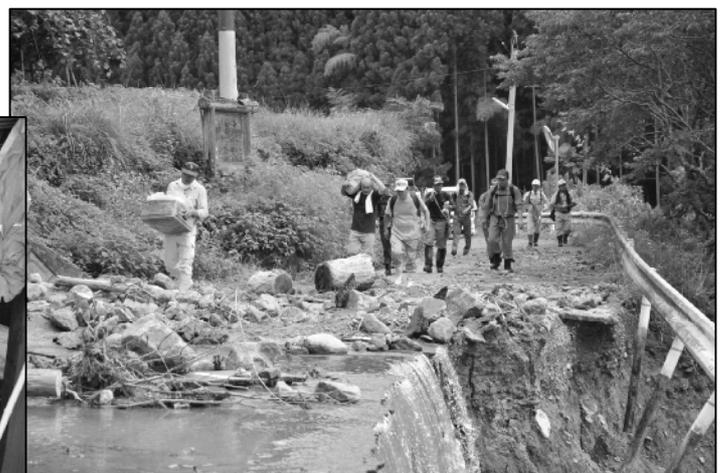
今回、派遣を通して地元の方に災害時の話を多く聞くことが出来ました。

ボランティアの方や私たち派遣職員に対しても、暖かい言葉を頂きました。

一番印象に残った言葉は、「ありがとう」と「あんな思いは二度としたくない」です。

【写真3】

- ・災害ボランティアの様子



もうすぐ1年です。

災害復旧は、始まったばかりです。

以上

うきは市での生活



派遣先 うきは市災害対策推進室
所属 技術監理室指導課
氏名 加藤 剛
活動期間 平成 25 年 7 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日
支援活動 災害復旧対策

【仕事】

災害対策推進室には公共災、農業災、林業災、災害復旧復興支援の4チーム(全25名)があり、北九州市は公共災の応援です。県、福岡市からも農業災、林業災の応援に来ています。

既に災害査定も終わり、順次起工・工事をおこなっていた時期だったため、主な業務は、ブロック積擁壁基準の改正により断面構造が変わってしまう工事の重変手続資料の作成と、起工設計書の作成でした。

うきは市職員3名と北九州市職員3名が、それぞれ1対1でペアを組むという3班体制で仕事を進めます。市域を大きく3分割し、各班が1地区ずつ面倒を見ます。ですので、道路、河川、橋梁、法面保護など全てが対象です。3班が同じ内容をしているので、設計書の作り方、工事の進め方などの統一は図りやすく、摺り合わせをしながら行っていきます。

雰囲気はのんびりとして、派遣当初に各案件の大まかな作業スケジュールを伝えられたため業務内容が把握しやすく、マイペースで仕事を進められました。

今後は工事監督の業務が主になると思いますが、基本、地元との調整などは全てうきは市の職員が行うこととなっていますので、メインではなくサブの様な位置づけになるかと思います。

うきは市職員の方は皆さん優しいです。北九州市が班を組む3名の方も親切で（基本的に3名ともおとなしいので手取り足取りではありませんが）こちらが困っていたり、不明な点を尋ねたりすると、内情・裏話なども踏まえて色々と教えてくれます。

余談ですが、うきは市職員の若い方はみんな消防団に所属しており、勤務時間中に火事があった際には一斉に火災現場に出かけていきました。大変です。

【まとめ】

正直、どう復旧すればいいのか唖然とする現場はまだ数多くあります。というより、やり易いところはもう終わっている。そういう意味で現場監督業務は大変だと思います。ですが、派遣された複数の方が言っていたように、北九州市に戻りたくない、という気持ちも良く判る所でもあります。

最後に、うきは市は果物がとても美味しいところです。北九州と同じ値段でも質が全然違います。是非食してみてください。

うきは市への派遣を終えて



派遣先	うきは市災害対策推進室
所属	建設局東部整備事務所工務第二課
氏名	大松 正成
活動期間	平成 25 年 7 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日
支援活動	災害復旧対策

【派遣が決まって】

派遣の打診を受けたとき、まず頭に浮かんだのは「フルーツの産地」という言葉くらいだった。かなり前の職場旅行で、原鶴温泉への道すがら旧吉井町に1～2度立ち寄った記憶がある程度で、ほとんど土地勘のない地へ赴くことになった。

正式なうきは市での勤務が始まる前に、前任者との顔合わせを兼ねた視察に行かせてもらったが、行ってみると、北には筑後川が流れ、南には耳納連山を擁する豊かな自然に恵まれたところだった。

ご存知の方も多いと思うが、うきは市には農水省の日本棚田百選に選ばれた「つづら棚田」がある。視察の際に立ち寄ったが、被災から1年近く経っているというのに、ブルーシートで覆われた斜面や壊れた石積みなど、豪雨の爪痕がまだまだ数多く残されている状況であり、この土地で暮らす方々のためにも早急に復旧・復興を行わなければならないと感じた。



うきは市内の被災地の様子

【被災状況】

平成24年7月の九州北部豪雨によって、うきは市では住家の損壊等の被害463棟のほか、死者1名、重傷者1名の人的被害も発生している。今回、北九州市が復旧の支援を行う公共土木施設（道路・橋梁・河川）の被害金額は25億円にも上っている。

公共土木施設以外にも、農地・農業用施設・林道・農作物・商工業施設等、被災したものは多岐にわたっており、被害総額は50億円に達している。

【業務にあたって】

北九州市からの派遣職員3名は公共土木施設災害復旧事業を担当するのだが、公共土木施設の被害のうち6割以上が河川の護岸崩壊等である。河川が被災した状態で再び豪雨に見舞われれば、川から溢水により今回以上の被害が発生する恐れもある。そのため、うきは市では河川の復旧を優先的に進めており、我々もその方針に基づき、河川災を中心に設計・積算業務を行った。

自分の北九州市での担当業務も河川に係る設計・積算、監督業務であることもあり、業務内容自体には特別な難しさは感じなかったが、政令市である北九州市と違って、うきは市の場合、起工時や構造等の重要な部分を変更する場合に福岡県との協議・調整が必要となるため、少々面倒に感じることもあった。

また、これほどたくさんの施設が被災し早急な復旧が求められる中、複数の職員・設計コンサルタントが設計に携わるため、基準等の解釈の仕方が人によって異なることがある。うきは市の職員やこれまでに派遣された職員の方々の尽力もあって、大部分は統一的な考え方が整理されているが、各工事の設計内容をつき合わせてみるとやはり微妙な違いが出てくる。

土木施設は現場条件に合わせたオーダーメイドなので、違って当たり前の部分もあるが、現場が違って同じでなければならない部分も当然ある。そのような部分に食い違いがあると、うきは市の設計・積算に対する考え方自体の統一が取れなくなる。

自分の知識不足もあり、そのような食い違い（とくに既に発注済の工事との）を埋めていく作業に当初の半月間くらいを費やしてしまい、工事の発注スケジュールに若干遅れを生じさせて、足を引っ張ってしまった面もあるかもしれない。日頃からもっと基準書等を読み込んでいれば・・・と少々反省した。

自分が実際に担当することになったのは、旧浮羽町新川地区の鹿狩川や妹川地区の持木川などである。派遣職員はそれぞれうきは市の職員とペアを組んで日々の業務を行っていくのであるが、北九州市の3人は皆40代のオジサンなのに対し、うきは市の3人は若手職員で、気を使わせてしまう面もあったかもしれないが、うまくバランスが取れていたように思う。

自分とペアになった鎌水氏はいつも明るく元気いっばいで、とても仕事がやりやすく、毎日の仕事を通して元気を分けてもらえたような気がする。

【最後に】

うきは市が用意してくれた宿舎は市役所から程近い場所にあり、車で10分もかからない。「あまちゃん」を見終わってから出ても、毎日始業前に行われるラジオ体操にもなんとか間に合う感じで、通勤にストレスを感じることもなく、とてもありがたかった。

また、派遣期間中には吉井祇園を見物したり、歓送迎会などで名物の豚足などを食したりする機会もあり、北九州市とは違う文化に触れることが出来、仕事の面以外にも貴重な体験をさせてもらった。

離任時には感謝状までいただいたが、3ヶ月という短い期間で、うきは市の復旧・復興にどれほど役に立てたのか甚だ疑問ではある。うきは市の方々が、「北九州市の職員が来てくれてよかった」と少しでも思ってくれたなら嬉しい限りである。

うきは市への派遣を終えて



派遣先 うきは市災害対策推進室
所属 建設局西部整備事務所工務第二課
氏名 室 伸治
活動期間 平成 25 年 7 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日
支援活動 災害復旧業務

【派遣までの経緯】

「7月から3ヶ月間、うきは市の災害派遣業務に行ってくれないか？」

課長より打診されたのは、平成 25 年 2 月中旬のことであった。

平成 24 年 9 月より、北九州市からうきは市、八女市への派遣業務を開始しており、いずれ私の職場にも話があるだろうと覚悟はしていたが、「人事異動の控えた時期であり、現時点で決定する必要があるのか？」と思いつつも了承する。

その後も6月中旬まで派遣業務に関して一切の情報や連絡がないため、現職場での業務の調整に困惑することになる。

7月1日、「うきは市災害対策推進室」の辞令を受ける。

【うきは市災害状況】

災害復旧事業については、公共土木（河川・道路）・農業施設・林道施設と査定を受けており、被害状況は下図のとおりである。その他の小規模な被災箇所については、うきは市が直轄事業として施工している。

北九州市は公共土木の復旧業務を担当し、うきは市職員とペアを組み3班体制で行った。被災箇所の多くは、旧浮羽町の山間部にあたる。

被害状況(災害査定決定分)	
事業区分	災害箇所数
公共土木施設	191
農地・農業用施設	191
林道施設	23
合計	405

【道路災害】

道路災害については、最低限の復旧が完了しており通行は可能となっていた。しかし、いたる所で路肩部の崩落、舗装の欠落が見受けられた。また、山林からこぶし程度から人頭大の落石があるなど、もともと狭隘道路のため、通行には十分に注意する必要があった。

【河川災害】

緊急性のある道路災害復旧は完了しているため、河川災害復旧が業務の主となる。

河川災害は、大部分が石積護岸の崩壊であり、数mのものから100mを超えるものまで災害査定ごとに区分されている。自動車で寄り付けられない被災箇所も多くあり、草むらをかき分け、河川を遡る必要がある。しかし、被災からすでに1年が経過しており、雑草が生い茂り、被災の全容が確認できない状況であった。

そのため、被災状況の確認は災害査定時の状況写真に頼ることになるが、その写真を見るたび、被災直後に調査を行った先発隊の苦勞に頭が下がる思いであった。

【業務概要】

すでに完了している災害査定設計を実施設計に置き換え、工事を発注することが主な業務であった。被災箇所ごとに被災原因や復旧方法が異なり、災害復旧の適用範囲など通常の工事と違う箇所に戸惑いを感じつつ、すべてを理解するころには1ヶ月近くが経過していた。

また、設計条件や方針を統一するよう先発隊の方々も努めていたが、福岡県内外より集まった設計コンサルタントであるため、双方に行き違いが見受けられた。特に、5m超の石積擁壁については、設計基準の改定にあわせ設計変更を行ったが、設計コンサルタントごとに構造計算の条件設定に差異が見られ、そのチェックと修正に苦勞を要した。

しかし、石積擁壁の設計を3ヶ月間行えた事は、貴重な経験であり、有意義に思えた。

【生活環境】

宿舎は市役所から約2km離れたマンションタイプであった。電気製品は一通り揃っており、特に不自由は感じなかったが、壁が薄く、就寝時に隣室のテレビの音が聞こえるのには閉口した。

食べ物もおいしいものが多く、果物が豊富であった。特に梨（新高）は絶品であり、今まで梨自体を過小評価していた自分を恥ずかしく思ったほどだ。

物価は北九州より1割程度安い印象であるが、店舗が早い時間に閉店するため、どうしてもコンビニの利用が多くなってしまった。

派遣期間は夏場であり、今年は非常に暑かった。市役所周辺は気温が連日38℃程度になっており、自動車の内部は蒸し風呂状態となっていた。

現場のある山間部においては、木陰に入ると涼やかで、河川の水は長靴越しでも冷たさを感じるほどで一服の涼を楽しめた。

【まとめ】

北九州市からうきは市の派遣業務としては4クール目の着任となったが、先発隊の成果を見直すごとにその苦労と努力が見受けられた。ただ、成果内容を真に理解するのに約1ヶ月を要したことは、被災箇所が多いこともあるが、災害復旧事業への経験不足も一因ではないかと思っている。3人が同時に着任するのではなく、1月ごとに1人ずつ交代するなど派遣体制を検討し、円滑な業務執行の引継ぎが必要ではないかと思う。

最後に派遣期間において、サポートしていただいた北九州市およびうきは市の関係者に心より感謝するとともに1日も早い復旧を願っております。

災害派遣へは進んで行こう



派遣先	うきは市災害対策推進室
所属	建設局東部整備事務所工務第一課主任
氏名	篠崎 正洋
活動期間	平成 25 年 10 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日
支援活動	災害復旧業務

(派遣へ)

5月のゴールデンウィークを過ぎた頃、課長から酒飲みを誘われ、その時、派遣の話が冗談めかしてあった。

私は、酔った上での話であり、53歳を過ぎた職員を派遣することは無いだろうと思い、軽い気持ちで「派遣に行つて、もいいですよ。」と返事をした。

そして、7月22日、突然、課長に呼ばれて、「災害派遣に行つてくれるか?」と言われた。今まで数々の災害、特に東北大震災の時には派遣に行くことに手を上げていたが、派遣に行く事無く終わっていたため、即座に「行きます。」と返事をした。課長からは「家族の了解を得て返事をしてくれ。」といわれたので、その日、帰宅して妻に話したところ『喜んで派遣に行きます。』と答えなさい。』との返答であったので、翌日、課長に前記の返事をした。

(下見)

8月上旬の日曜日に現地へ下見に行つたが、うきは市中心部は目立った被害は受けておらず、特に吉井町は白壁の建物がきれいな町の印象であった。周辺を散策して、その後、近くの「うきは道の駅」で買い物をしていると、平成24年7月の豪雨災害時と平成25年7月時の復旧状態の写真の対比掲示板があり、かなり復興している状況であった。

この進行具合では、10月の派遣段階では、工事の監督及び変更設計の業務をすればよいであろうと考えていた。

(9月10日の視察)

この日は、危機管理室の引率で初めて、うきは市役所を訪問し、現地視察へ行つた。

川には、巨石がごろごろと転がっており、先発の災害派遣職員に「もともと、有つた岩石ですか?」と尋ねたところ、「これ、すべてが平成24年の豪雨災害で流れてきたものです。」との答えに、ただ驚くばかりであった。

(9月30日引継ぎ)

前任者との引継ぎは9月30日10月1・2日の3日間で行われた。



この時、事業の流れと事務処理の方法を習い、勤務についた。しかし、説明だけではなかなかその場では、理解できなかったため、うきは市の職員に、こまめに教えを請うた。今後は、業務を実践してその上で、一週間後ぐらいにも前任者が、来て再び引継ぎ説明をするようにする方法がより理解し易かったのではないかと思う。

(業務内容について)

引継ぎ後、うきは市の職員と共に現地視察へ行き、災害現場を目の当たりにし、「大変なところに来たものだ。」と、思ったが「地域の復興及び自然環境の再生のためにも頑張らなければ。」と決意を新たにし業務に臨んだ。

業務は、災害発生直後に国が査定した、査定設計書を参考にしながら、実際に工事をするための実施設計書の作成を行なう事である。

高さが5m以上の石積擁壁や工法を変更すること、査定設計金額より3割を超える設計は重要変更協議が必要となる。

これは査定設計の金額(総合単価)に対して、その査定数量に合わせた実施単価の設計書を作成することから始まる。その作業が完成すると、実際工事を行う数量を挿入し、実施変更設計書を作成。その後、査定設計書・実施設計書・変更設計書の対比表を作成し、変更理由書と安定計算表等の根拠資料を添付し、まず、久留米市にある県土木事務所に提出、その後、福岡市の県庁に送り込む事になる。このような流れで、重要変更協議の手続きを行うが、査定により、裁量の幅が規定(当たり前の話ではあるが)され、現地の状況と査定設計との摺りあわせが大変で、実情に合っていない設計も数多く、入札の段階で、不調となることが多々あった。

(反省)

数多くの災害現場があったため、コンサルタントの作成した災害復旧設計成果品の図面数量表の間違えが多く、当初、変更に次ぐ変更で最新の図面及び数量表がどれなのかわからなくなり間違っものを採用し、やり直したことがあったので、うきは市の担当職員には大変迷惑をかけてしまったことを反省している。

前任者から「多少の図面の修正や数量の変更は自分でしないと、コンサルタント会社に任せると、時間が懸かるよ」といわれ、自分でパソコンを操作し、図面修正や数字修正を行った。

ただ、今までした事がない操作だったので、周りの職員に教を請う形となり、迷惑をかけてしまった。



(生活面)

派遣生活で一番心配だったのは、食事面で、お手軽食品(冷凍・レトルト・乾麺)はなるべく使用しないようにし、野菜を必ず採る生活をしていたが、内容的には、袋に入った、キャベツの千切りばかりを食べていた。

又、昼は自分でランチジャーにご飯・冷凍食品のおかずを詰めて持っていった。うきは市役所では、自分の机で食べることは出来ないため、休憩室

でうきは市職員とランチをした。

希望していた独身生活であったが、妻の監視がないため、毎日晚酌をして肝臓に負担を強いた食生活であったと思う。精神的には開放感がある充実した生活で、平日は一生懸命働き、夕食の献立を考えることで時間が過ぎ、テレビを見て寝る生活であったが、これが、むしろに幸せであった。

土日は、部屋の掃除・洗濯後、久留米や日田に繰り出して映画を見たりして楽しんだ。

(3ヶ月の派遣が終わって)

長いと思った3ヶ月も仕事に追われた感じで意外と早く経過した。土日は疲れが溜まっていたため(本当か?)、JRを使えば3時間ほどかかる自宅に2週間か3週間に一度しか帰省しなかった。

休みの日には、うきは市内を食べ歩きと観光を行い、少なからずも、うきは市の経済に貢献できたと思う。

(最後に)

当初、災害派遣されると、仕事はもちろん、生活が大変ではないのかと不安に思ったが、そんな心配は無く、無事、3ヶ月を過ごす事ができた。うきは市の職員の方とも親交を深め、うきは市のイベントに都度つど参加した。

若い方々は、不安がらずに災害派遣に行き、仕事・他市の職員との交流など経験してほしいと思う。

うきは市派遣を経験して



派遣先 うきは市災害対策推進室
所属 建設局西部整備事務所工務第一課主任
氏名 吉谷 貴彦
活動期間 平成25年10月1日～平成25年12月31日
支援活動 災害復旧業務

1. はじめに

長いようで短い三ヶ月が終わった。今振り返ってみると自分に何ができたのだろうか？と考えてしまい、まだやれることが沢山あったのではと思ってしまう。

今回のうきは市への派遣は平成25年10月1日から12月27日までの3ヶ月で第5陣篠崎氏と會津氏三名の派遣であった。

派遣の話聞いたのは5月に入っすぐだった。事務所から派遣を出しているのは知っていたが、現職場の西部整備事務所に4月末に異動したばかりだったのでまさか声が掛かるとは思ってもいなかった。

初めは自分で大丈夫なのかと迷ったが、故郷のために少しでも力になればとすぐに決心はついた。

2. 現地事前視察

9月10日に事前視察があり、これから派遣になる私にとっては少しでも不安を減らせることができればと思って臨んだ。

高速を降り市内に入ったが一向に災害らしいものは見当たらなかった。市役所に着き、職場に行っ



写真-① 災害復旧情報コーナー

てみると、災害復旧情報コーナーに災害箇所が落とされた市内の管内図が貼ってあり、それを見て唖然とした。かなりの箇所数があり、それも山間部に集中しており不安を減らせるどころか大丈夫なのかと不安が増してしまった。

しかし、職場の様子は雰囲気も良く、派遣の職員の表情も悪くはなかったので少し安心した。

3. 業務内容

業務内容は、うきは市の職員とペアを組んで担当地区の災害復旧を行うもので、中でも今回派遣組の主な業務内容は、査定設計書を元に実施設計書を作成したり、重要変更協議の資料作成といったデスクワークが主な業務だった。

現場監督がないので少しは楽かと思われそうだが、一日中机でパソコンとにらめっこはかなり堪えた。

まず査定設計書の中身を確認し、査定時の考え方を理解し設計書を作成することだったが、査定に関わっていないため不明な点もあり、うきは市職員の力添えがなくては業務を進めることはできなかった。やはり災害復旧は、査定→設計→実施を分割せず一連の作業として処理することが大事だと思った。コンサルに関しても、市の担当が三ヶ月で交代するため対応しづらい感じが見受けられた。

4. 進捗

12月末の時点で発注率 76.4% (公共災・箇所ベース) で 100%に向けて先が見えてきた。しかし、完成率は 35.6%とまだまだ低い。

派遣当初は、三ヶ月で少しでも率を上げて帰りたいと思って臨んでいたが、しかし現実は厳しかった。県と協議しては、考え方の違い等もあり資料の持ち帰りと前に進むところか手戻りの連続だった。件数も多くコンサル、担当者が複数いるため統一されていなかった部分もあるが、県や国との協議に費やす時間がないことを少し考慮してもらえれば復旧のスピードが上がると思う。

幸い途中で重要変更協議の件数が多いため、一部については協議の対象外となり作業が軽減することとなったが、もう少し早めに対応してくれていれば進捗はもっと上がっていたと思う。



写真-②被災状況 (白土橋)



写真-③復旧状況 (白土橋)



写真-②被災状況 (白土橋)



写真-③復旧状況 (白土橋)

5. うきは市職員との交流

うきは市に来てまでサッカーが出来るとは思ってもいなかった。

職場のサッカー部の職員から練習や試合に誘ってもらったおかげで、時間外や休日にも有意義な時間を過ごせることができたし、災害対策推進室の職員だけではなく、多くの職員と交流を深めることができた。

三ヶ月と短い期間だったが、うきは市サッカー部の一員になれた気がする。

また、機会があれば一緒にサッカーをやりたい。



写真-⑥サッカー部のみんな

6. 派遣を経験し

今回の派遣を通じ、いろいろな事を経験することができ勉強にもなり財産にもなった。

職員みんなが「おはようございます」「お疲れ様です」と顔を合せると声を掛け合いすごく気持ちの良い市役所だと感じた。また、災害対策推進室の職員も勉強熱心で仕事に対する熱意が伝わってくるものがあり、北九州市や自分ではどうかと考え直してしまうこともあった。

とにかく何事もなく三ヶ月過ごせることができたのもうきは市のみなさんの心遣いのおかげだと感謝している。

7. 最後に

発注に関しては先が見えてきている。しかし、これからは現場監督や設計変更といった完成に向かった大変な作業が待ち構えている。少ない人数で多くの件数をこなすのは大変で困難な事も多いと思われるがみんなで協力して復旧完了を目指してほしい。

派遣はこれで終了だが、声が掛かればすぐにでも応援に向かいたいと思っている。

がんばれ うきは市

うきは市での災害派遣活動の報告



派遣先 うきは市災害対策推進室
所属 小倉南区役所まちづくり整備課
氏名 會津 和樹
活動期間 平成 25 年 10 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日
支援活動 災害復旧業務

1. はじめに

私が派遣の話を頂いたのは4月頃でした。私は入職して2年目なので、うきは市に派遣されても何の役にも立てないのではないかと思います、当初は断るべきなのか迷っていましたが、しかし、現職場に昨年うきは市へ派遣されていた先輩がいたため、その話を聞いて自分にとって勉強になるのではないかと考え、うきは市に行こうと決めました。

2. 現地の状況

今回派遣されたのは、篠崎主任・吉谷主任・私の3名で、派遣期間は10月から12月までの3か月でした。



写真-1 被災現場（中の小路川）

10月1日に辞令を受け、うきは市職員の方と担当することになる現場に行きました。写真-1はその中の一例です。9月の事前視察の際にも現場に連れて行って頂いたのですが、実際に自分が担当する現場を目の当たりにして、本当に自分で大丈夫だろうか、とても不安になったのを覚えています。

3. 業務について

私たち北九州市派遣職員3名は、うきは市の災害対策推進室という部署に配属となり、うきは市職員3名と協力して業務に当たりました。写真-2はその職場の様子です。



写真-2 災害対策推進室の様子

派遣期間の前半は前任の方から引き継いだ工事の実施設計を行いました。主な作業内容は、コンサ

ルタントから送られてきた数量計算書と図面をチェック・修正して起工用の設計書を作成することでした。その作業において、自分の知識不足で何度も一緒に派遣された主任のお二人に教えて頂きました。たびたびお二人の作業を止めてしまい、ご迷惑をかけたが、それでも丁寧に教えて頂き大変感謝しています。

また、擁壁の高さが5mを超えているものに関しては、査定時より裏込コンクリートを厚くする必要があるため、実施前に県との重要変更協議が必要となりました。その資料の作成も担当したのですが、県との協議で度重なる資料の差し換え等を指示され、作業が中々思うように進みませんでした。

派遣期間の前半は、設計書や重変書類の作成に追われて、現場へ出ることはほとんどありませんでした。

派遣期間の後半になると、動き出した工事が増えてきたということもあり、うきは市職員の方と一緒に現場に行くことも増えてきました。写真-3・写真-4はその様子です。地元の地権者の方や業者の方との立会や、実際にブロック積の現場を見ることが出来て大変勉強になりました。



写真-3 現地立会の様子1



写真-4 現地立会の様子2

4. 派遣されてから

当初は、私自身北九州市を離れることが初めてで、一人暮らしに慣れるのだろうかと心配でした。また、日々の業務もこなしていけるのか不安でした。そのため、派遣期間の3カ月というのはとても長いと感じていました。

しかし、実際に3カ月が過ぎてみると本当にあつという間だったなと感じています。うきは市の職員の方も親切で、職場に入りやすかったのは自分にとって本当に良かったです。三ヶ月間お世話になったうきは市の方々には大変感謝しています。ありがとうございました。

5. 最後に

今回の派遣では非常に貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。また、派遣期間中、現職場で自分の業務を受け持って頂いた職員の方々、ご迷惑をおかけすることも多かったと思いますが、大変感謝しています。ありがとうございました。

うきは市での3ヶ月間



派遣先 うきは市災害対策推進室
所属 建設局西部整備事務所工務一課主任
氏名 松尾 浩
活動期間 平成26年1月1日～平成26年3月31日
支援活動 災害復旧支援

九州北部豪雨（平成24年7月11日～14日）の翌日15日、私は朝倉 IC から日田へと筑後川沿いに車を走らせていました。車窓からみえる風景から、昨日までの集中豪雨が甚大であったことが容易に伺えました。筑後川は黄土色の濁流、道路も通行止めの箇所があり迂回しなければいけないところもありました。それから1年半後に再度この地を踏むこととなるとは想像すらせず、「災害を受けたところの職員はこれから大変になるだろうなあ！」と人ごとの様に思いながら車のアクセルを踏んでいました。

平成26年1月6日（月）うきは市長から辞令を受け取り、我々北九州市からの派遣チーム3名の第1日目が始まります。私の北九州市での職歴（25年）の中で災害関連の仕事は未経験であったため、小さな不安も抱えつつ「何とかなるだろう。」との複雑心境でのスタートとなりました。

北九州市から派遣された我々3名は、うきは市公共災害チーム職員3名と1対1でペアを組む体制で業務は進められていくとのことでした。

まず、災害状況、公共災害チームの進捗状況、3月までの業務予定などの説明を受けました。

うきは市の災害状況については、これまで報道などで窺い知っていましたが、現地の職員から直接



説明を受けることで、これから3カ月間の仕事の重みを再度考えさせられ、身の引き締まる思いでした。

工事完成状況については、なかなか思うような進捗をあげられておらず12月末時点で40%にも達していないというのが現状でした。

工事契約状況は、12月末時点で80%を下回っており、3月までに残りすべて発注し

100%契約することが目標となりました。しかしこちらでも入札不調が多々あり、再入札や随意契約を行っているとの説明も受けました。

この日の夜、災害チームとの親睦を図るための夜の部を開催していただき、昼間のオフィシャルな話とは別に、お互いにぎっくばらんな話もすることが出来、北九州市派遣チームとうきは市災害チームの距離がグッと近づいた様でした。

まず最初に取りかかったのは、工事を起工するための積算です。積算するにあたり委託業者からあがってきた図面、数量をチェックします。災害査定に基づいた構造になっているかチェックしなければなりません。査定経験のない私はこの作業に少しばかり苦労しました。しかし一緒に派遣されてきた職員やうきは市職員からの助言などをもらいながら業務を進めていくことが出来ました。

この図面、数量を基に積算を行います。積算システムも慣れ親しんだ北九州市のものとは異なり、当初は周りに教えてもらいながらの作業でしたが、時期に操作にもなれ積算を進めていきました。

お陰で2月中旬には私のペアもどうにかノルマを達成（100%発注）することが出来ました。

先に記しましたが工事進捗が進まないため、工事完了出来ずに繰り越ししなければならない箇所も少なくありません。

工事が進まない理由のひとつに、請負業者数が少ないということもあります。そのため工事を起工しても不調となります。結果、先行工事の受注者と随意契約を締結、今回工事は先行工事が完了しないと着工できず進捗が進まないという状況も見受けられました。



また上の写真は、今年度の繰越申請の写真撮影のため現場へ向かっているものです。河川災害の箇所は辺鄙な山間に多いため、簡単に寄り付く事が出来にくいのです。多くの河川復旧工事はこのような河床に仮設道を造り現場へ導くこととなります（左の写真）。このような悪条件な現場というのも、工事の進捗を遅らせる要因のひとつのようです。

今回の派遣期間は年度末でもあるため、竣工する工事の変更作業も行いました。業者から図面が提出され、図面のチェックと修正を行うのですが、北九州市と違ううきは市の職員は図面の修正も行うことがよくあります。私もうきは市職員と分担しながら図面修正や数量計算書の作成を行い変更作業の手伝いを行いました。



また、現場へも何度も出向き、業者との立会いや打合せなど業務も行いました。

左の写真は、災害現場での段階確認立会の写真です。

現場でうきは市職員と業者や地元の方との会話を横で聞いていると、こちらの方言がとても強いため派遣当初は言葉を聞き取ることがあまり出来ず、苦勞したこともありましたが、日がたつにつれ少しずつは耳もなれてきたようですが、3カ月間では習得できなかったようです。

今回の派遣は3ヶ月間でしたが、あっという間の3ヶ月間でした。うきは市の職員の方々には非常に親切に接していただきました。業務の節目では何度も一緒に飲み、とてもよい絆を結ぶことが出来たと思います。1月6日の初日に感じた「上手くやっていけるだろうか」などの緊張が嘘のようです。まだまだ、うきは市での生活を続け、災害復旧支援を続けたいと感じるようになりました。うきは市の方々とはこの出会いを機に、いつまでも大切につながり続けていきたいと思っています。

最後に、このような機会を与えていただいた北九州市や職場の皆さんに感謝いたします。これからの北九州市での私の業務にとってもとても大きなプラスになった3ヶ月間ではないかと感じております。北九州市の地からうきは市の1日も早い復興をお祈りしています。

うきは生活



派遣先 うきは市災害対策推進室
所属 建設局道路維持課
氏名 古田 正剛
活動期間 平成26年1月1日～平成26年3月31日
支援活動 災害復旧支援

1. はじめに

私が、うきは市への派遣の話を頂いたのは、昨年(平成25年)の11月初旬でした。

「君が適任だと思う！」という、ありがたい上司の言葉に反し、私は、災害復旧の経験もなく、今の知識で役に立つのか不安でした。

派遣の期間は、平成26年1月から3月までの3カ月。前任者から、「うきは市は寒い！」と聞いていたので、防寒対策をしっかりと行い、うきは市へ入りました。

仕事始めの日、辞令交付式を終えて、これから3カ月を過ごす職場へ・・・初めての職場、初対面の人々、山積みになっている災害査定資料・・・不安は現実のものとなりそうでした。

ただ、その日が仕事始めだった事もあり、業務終了後には恒例の新年会・・・

そのおかげもあって、職員の方との親睦については、上々のスタートを切ることができました。私の中の不安材料が少し取り除かれた気がしました。

2. 災害対策推進室での活動

私が災害推進対策室で行った主な作業は、現場管理でした。

私の前に来ていた北九州市の職員は、災害査定や積算業務等を限られた時間でこなしていたと聞きました。そのおかげで、私がこちらへ来た時には、ほとんどの工事発注が終わり、多くの工事が着工している状況でした。

一応、最初に2、3件の積算も行いましたが、北九州市とは積算ソフトも異なり、また、うきは市独自のルールなども存在し、困惑したことを覚えています。しかし、うきは市の職員さんが親切に教えてくれたため、大きな手戻りもなく、仕上げる事が出来ました。その後は、現場管理が中心となり、朝から現場で立会、立会中に別の現場から立会の要請があり、そちらへ直行、というようなスケジュールも多々ありました。



【現場の立会状況】

3. 活動中に感じたこと

工事現場で気づいたのは、各工事業者によって仕事のスピードに差が生じている事です。この差の原因は、現場の難易度より、むしろ工事業者の内情によるものだと聞きました。現在のうきは市では、工事業者（土木関係）の数に対し、工事数が多すぎて、各工事業者が複数の工事を受注している状況です。このため、人手不足やリース機械の順番待ちなどにより、着工や進行に遅れが生じているとのことでした。

このため、どの工事でも工期延期が当然ようになっており、年度末での竣工が微妙となっている工事も複数あります。ただ、そのような状況でも、弱音を吐かずに頑張っている工事業者の人たちと、その工事業者との現場相談や立会を速やかにこなしていく、うきは市の職員さんには頭が下がる思いです。



【現在施工中の現場】



【未着手の現場】

4. 現場での注意事項

災害の現場の多くは山間地の河川護岸や道路です。このため、現場へ行く時に、思いもよらぬことが起きたりもします。

平地に雪が降っていないから、山間地も同様とは限りません。平地は晴れているのに、山間地の道路上には、10cm以上の積雪が残っていることもしばしば……。仮に道路に雪がなくても到着した現場の一面が20～30cmの積雪で埋めつくされていることも……。

そのため、車両通行を断念することや、現場で雪かきを行うこともありました。

また、うきは市の山間地には杉の木が多く植樹されているため、2月の中旬くらいから、多量の花粉が飛散しており、それは北九州の比ではありませんでした。そのため、涙を流しながら、くしゃみが止まらないまま現場立会をする事も多々ありました。

5. うきは市職員との交流

災害対策推進室の皆さんは、北九州からの支援に対して、非常に感謝している様子です。特に、私たちが所属する公共土木災害チームの4名の方については、非常にフレンドリーで、初日の新年会から、気軽に接してくれました。このため、私たち北九州の3名は、すぐにチームに溶け込むことが出来て、余計なストレスもなく、気分よく業務に集中することができました。

通常、立会等のため工事現場へ行くときは、うきは市の職員さんと一緒に向かいます。現場へ向かう車の中では、うきは市の職員さんといろいろな話をしました。

うきは市の観光名所や特産物、うきは市が抱える行政問題、災害復旧の現状や問題、業務への思いや不満・・・時には、話に夢中になり、目的地を通過してしまうことも・・・。

仕事以外でも、公共土木災害チームの方が入部している、うきは市役所サッカー部の練習にも参加させてもらい、汗を流したりもしました。

6. おわりに

平成26年2月末時点で、災害復旧工事の発注率は約99%（箇所ベース）まで進み、あと3件の工事が落札されれば、発注率100%に達します。

ただし、現時点での工事完成率が約40%であることを考えると、これはあくまで通過点であり、この先まだまだいくつもの試練が待っていると思います。

私がこちらにいる間に、少しでも完成の手伝いをしたい気持ちはありますが、それも限界がありますので、引き続き北九州から支援を行い、災害復旧工事の完成100%の手助けを行ってほしいと思います。

最後に、うきは市の1日も早い復興をお祈りして、活動の報告とさせていただきます。



【職場の風景】

うきは市への災害復旧支援に参加をして



派遣先	うきは市災害対策推進室
所属	産業経済局農林水産部農林課
氏名	衛藤 勉
活動期間	平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
支援活動	災害復旧支援

平成 24 年 7 月に発生した「九州北部豪雨災害」から約 1 年経過した、平成 25 年夏に所属課長から、「うきは市への災害派遣は可能だろうか？」との話をもらった。

その時、

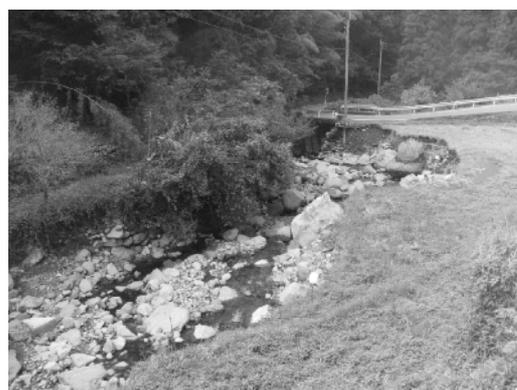
- ①約 1 年経過した今でも派遣があるのは、復旧の進捗状況は悪いのだ。
- ②「支援活動に参加を」と思っていたが、建設局中心で派遣されていたので現所属では、声がかからないと思っていたので良い機会ではないか。
- ③派遣期間は 3 ヶ月間だが、単身赴任は大丈夫だろうか？

など様々な思いが巡った。自宅に帰り家族に話をしたら、「3 ヶ月間、行ってきても良いよ。」との返事があったので、翌日、「行けます。」と課長に告げた。

それから、派遣期間は年明けの平成 26 年 1 月 1 日から 3 月 31 日までと決定した。

派遣決定から、数カ月たった 12 月に初めて一緒にいくメンバーと顔を併せ派遣概要の説明を受け、翌週にうきは市への下見となった。うきは市は、公・私用でも行った事はなく車で通りすぎるだけの市であった。危機監理室の車でうきは市に到着すると、先に派遣された職員に話を聞いていたが、平地は災害の痕跡もなくキレイな町並みであった。その後、派遣されている北九州市職員に案内され災害箇所（山地部）に行った。現場には市庁舎から車で約 20 分間を要したが、事前に入手した情報どおり「棚田」が広がり素晴らしい景色が広がっている。しかし、その中に護岸が崩壊し、巨石で流路がなくなっている河川が続いている。その光景は平地と異なりすぎている。

少数ではあるが復旧した道路・河川はあるものの、その数よりも災害時のまま崩壊している箇所が数多く残っているのを見て、復旧は思っているよりも進んでいないと痛感した。



新年（2014年）を迎え、1月6日(月)にうきは市長から辞令を受け、うきは市での災害復旧支援業務を開始した。

業務は、先発チームが受けた災害査定の工事発注である。平成24年度での査定であることから今年度内（平成25年度内）に工事発注をしなければならず、担当する件数と残り期間から、本当に発注が出来るかが心配になってきた。

北九州市でも工事発注業務も行ったが、一般の工事発注と違う災害関連の工事発注、積算システムの違い等の災害復旧業務に関する基本事項を覚える事で最初の1週間はすぐに過ぎた。やっと慣れてきたが、委託先の設計コンサルタントから予定通りに成果品が納品されず、発注期限が迫って来る事により焦りが生じてきた。

だが、その様な状態になった時、一緒に赴任された北九州市の2人と、業務中・時間外に話をする事でリフレッシュされた。また、配属された「災害対策推進室」のうきは市職員、福岡県・福岡市から同じように派遣された職員、趣味のサッカーを通じて知り合った職員等、皆さん方が心優しく接してくれるので、気持ちが落ち込む事なく業務が行えている事に感謝をしている。

この様な状況で、私が担当した「水洗渡瀬下橋災害復旧工事」が公共土木災害の最後1件となり、災害発生後、約1年半を経過した平成26年3月4日に、公共災害（全件数：191件）の工事発注が全て完了した。

しかし、工事発注は完了したが、施工業者の人手不足等の問題により工事着手出来ない現場、工事着手をしても巨石（岩）破碎により工事進捗が遅い現場等の施工管理に関する問題。災害査定の基準に満たしておらず、うきは市の単独災害事業で行わなければならない被災箇所の施工。様々な課題は残され、まだまだ復興完了には年月を要すると思っている。

赴任して2ヶ月経過した2月下旬に、査定時・今年度当初の派遣職員に今年度に完成する工事箇所についての意見交換会として、再度うきは市に来てもらった。その時は、うきは市の災害工事に関する統一見解が図れ、今後ある「成功認定」・「会計検査」に向け、うきは市職員も感謝していた。



北九州市に勤務して、19年経過し初めての他都市での災害復旧業務を行った事で、いろいろ感じる事があったが、一番は、「工事発注をすることで微力ながら、災害復旧に支援できていると感じること。」である。そして、3ヶ月間不在し業務上でご迷惑をおかけしている所属部署、いろいろとバックアップをしてもらっている危機管理室等、さまざまな人達に感謝の心を持つと感じる事もできた。

今回、派遣された事は支援と言う立場でありながら、工事に対する考え方を再度学び直す事、業務以外でも様々な人達とふれ合う事等ができ、自分自信のためになっていると感じています。

まだ、派遣期間はあるので自分が出来る事をしっかりと行い、うきは市の復旧支援になるように残り少ない期間を有意義に過ごして行きたい。そして、今までの様に通りすぎるのではなく、災害復旧が完了したうきは市を訪ねようと思っています。

